

科目名	古典A	学年	3学年	単位数	2単位
教科書	古典文学選 古典A(教育出版)	副教材等	学習課題ノート(教育出版) 国語便覧・古語辞典・漢和辞典		

◎科目の目標

古典としての古文と漢文、古典に関連する文章を読むことによって、わが国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。

◎授業計画 編

	単元・教材名	学習内容	留意点
一 学 期	一 歌物語 伊勢物語 初冠 大和物語 姨捨山	○歌物語の特色や主な作品に関する文学史的な基礎知識を整理する。 ○和歌の修辞について整理する。 ○動詞の活用について、解釈と関連させながら暗記すべきことを確認する。	
	三 軍記物語 平家物語 忠度都落ち・先帝入水・能登殿最期 面影ばかり(建礼門院右京太夫集)	○正確な読解をもとにして、登場人物像と心情を理解する。 ○形容詞・形容動詞について、解釈とかんれんさせながら暗記すべきことを確認する。	
	五 歴史物語 大鏡 道真左遷・三船の才・中宮安子の嫉妬・兼通と兼家の確執・若き日の道長・道長と隆家・鶯宿梅	○語り手の人物像を捉え、助動詞「き」で語られる歴史の意味について考察する。 ○助動詞の活用表を使って助動詞の基礎知識を整理し、読解と結びつける。 ○さまざまな助詞の用法について、語り手の発言内容とからめながら理解する。	
二 学 期	七 源氏物語 光源氏と紫の上 光源氏の誕生・若紫との出会い・二条院に引き取られた若紫・光源氏、須磨への退去・紫の上の嫉妬・養母紫の上・六条院の女君・紫の上の死・追憶の日々	○『源氏物語』を読み、主人公光源氏の人生を、最愛の伴侶紫の上との関わりの面から読み味わうとともに、日本文学の最高傑作とも評される『源氏物語』の作品世界にふれ、古典に親しむ態度を養う。	
三 学 期	八 評論 清少納言・紫式部(無名草子)／関路の落葉・静縁のこけ歌のこと(無名抄)／もののあはれ(源氏物語玉の小櫛)	○さまざまな評論を読み、古典文学の根底にある発想を知ることによって、わが国の伝統と文化について理解を深める。	
	九 近世小説 夢応の鯉魚(雨月物語・新釈雨月物語)／雨月物語について(三島由紀夫)	○『雨月物語』を『新釈雨月物語』と読み比べ、文学の想像力について考える。	

◎授業計画 漢文編

	単元・教材名	学習内容	留意点
一 学期	一 逸話 季札挂劍・晏子使楚・先従隗始・俛出袴下	○比較的短い四つの逸話作品の読解を通して、漢文への興味・関心を深める。	
二 学期	二 史記 史記 鴻門の会・四面楚歌・項王の最期 詩 題烏江亭(杜牧)	○史記を読解しながら、項羽と劉邦を中心とした多彩な登場人物の描写を味わうとともに、作者司馬遷の人間に対する観察眼、洞察力にふれる。	
	三 詩文 詩 竹里館(王維)・芙蓉楼送辛漸(王昌齡)・秋浦歌(李白)・楓橋夜泊(張繼) 文 桃花源記(陶潜)	○詩に詠み込まれた情景や作者の心情を読み味わう。 ○陶潜の文章を読み、そこに表れた人間・社会・自然などに対する筆者の思想、考え方を理解する。	
三 学期	四 三国志 関羽と張飛・諸葛孔明・赤壁の戦い 詩 蜀相(杜甫)・星落秋風五丈原(土井晩翠)	○『三国志』の英雄にまつわる話を読み、登場人物の人物像や性格を読み取るとともに、その英雄たちが織りなす世界のおもしろさにふれる。	

◎評価の方法

<ul style="list-style-type: none"> ・評価は、定期考査や小テスト(知識・理解)を中心に、出席状況や授業への取り組み状況(関心・意欲・態度)、発言(思考・判断)や提出物(思考・知識・理解・意欲)などで総合的に判断して行う。 ・定期考査は、実施せず単元ごとに理解度を確認するテストを実施する。 ・なお、年間授業時間数の1/3以上を欠席すると、単位を認定しないので注意すること。
--